

会報 八丈島三根会



八丈島と三根と私達！



第 32 回八丈島三根会開催日発行

第 32 回八丈島三根会総会

12:00 三根会総会開催 (司会 幹事長 峯元 信博)
 会長挨拶 会長 小宮山 肇
 来賓挨拶 八丈町町長 山下 泰也
 来賓挨拶 八丈町議長 小沢 一美
 会計報告 会計 佐藤 千鶴代
 会計監査報告 会計幹事 須藤 保
 乾杯 名誉会長 高橋 朝見
 歓談



13:40 懇親会 (司会 幹事長 峯元 信博 & 会員 小宮山 稔)
 津軽三味線演奏 「饗弦」 代表 小山 貢新
 三根在住有志 大澤 幸一
 恩師紹介
 学年クラス紹介 学年クラス
 歓談



14:50 校歌斉唱 (全員) 会員有志
 万歳三唱 副会長 奥山 高一

14:55 終了



三根小学校校歌

作詞 野口雨情
 作曲 藤井清水

一、朝日はのぼり輝やきて

八丈富士の峰高く

仰ぐわれらの三根校

仰ぐわれらの三根校

二、剛健不撓の精神に

流れも強き黒潮の

沖ゆくごとく進みなん

沖ゆくごとく進みなん

三、磯うつ浪の絶ゆるなく

朝に夕べにいそしみて

いざもろともに励みなん

いざもろともに励みなん

この度、八丈島三根会より八丈島出身の多くの関係者の方々に知って頂くために会報を発刊することにいたしました。三根地区や学校の記事、そして八丈島の情報発信また、私たち三根会会員の皆様からの便りなど掲載し、年一回の発刊を予定しております。三根会の皆様には会報への寄稿の記事をお願いすることもありますがご協力の程、宜しくお願いします。

八丈島三根会会長 小宮山 肇



写真：第31回八丈島三根会より

八丈島三根会は、八丈島を離れて東京近郊に在京する八丈島三根小学校を卒業した人達の相互扶助と親睦を図り、かつ八丈島在住者との絆を一層深めることを目的として昭和五十七年に設立されたふるさと会です。

発足当時は、八丈島と東京を繋ぐ交通機関は、空の便が羽田からYS11双発プロペラ機、海の便が竹芝桟橋から出航する「すといちあ丸」三千七百トンでした。現在の定期船より千二百トンも小さい船でした。

通信手段も、今のようないくもな携帯電話もなく有線の固定電話だけでした。八丈島の情報量もやとりも現在のようにリアルに大量の情報が入手することもなく限られたものでした。

そのような背景から、年に一回、同郷の旧友が集い諸々の情報交換をする八丈島三根会の発足は意義あるものでした。

第一回八丈島三根総会は、昭和五十七年二月十四日、新宿の「東京大飯店」で開催され、二百七十九名の会員が参加し、久しぶりに会う級友たちとの懇談に花が咲きました。

初代会長は、小沢民雄氏で同氏がこの会の発足に向けて、意を共にする同胞の方々の協力を得ながら諸々の活動が進められ、この会が設立されました。

同氏が第一回総会から昭和六十三年の第七回総会までの七期努めました。

第二代会長は、前田芳郎氏で平成元年の第八回総会から十年の第十七回総会までの十期努め、第十七回総会からは会場が帝国ホテルに移されました。

第三代会長は、山丸鉄弥氏で平成十一年の第十八回総会から平成十二年の十九回総会までの二期努めました。

第四代会長は、持丸孝雄氏で平成十三年の第二十七回総会まで八期努め、この間の平成十六年の第二十三回総会から品川駅前ある一ホテル、パシフィック東京に会場を移しました。

区分	会長	区分	幹事長
第1～7回	小沢 民雄		-
第8～17回	前田 芳郎	第14～19回	持丸 孝雄
第18～19回	山丸 鉄弥		
第20～27回	持丸 孝雄	第20～23回	佐藤 辰彦
		第24～27回	小宮山 肇
第28～32回	小宮山 肇	第28～30回	浅沼 和雄
		第31～32回	峯元 信博

八丈島三根会会長 小宮山 肇

第五代会長は、平成二十一年の第二十八回総会から現会長の小宮山肇が就任しました。

第三十回総会は、創立三十周年を迎えることから記念行事を計画し進めましたが、平成二十三年三月の東日本大震災の発生により総会を中止しました。

翌平成二十四年四月三十日、創立三十周年記念総会を東京プリンスホテルで行い記念品として「備前焼の湯飲み茶碗」を全員に配りました。

この会は発足当時、会員は三根小学校卒業生という条件がありましたが、現在は、八丈島三根地区に居住した人であれば参加できることになり、より多くの三根地区関係者が集い親睦を図るほか、在島者との絆を深めることにしました。

毎回、二百名を越す会員の方がこの会に参加し、八丈島からも山下奉也町長、小沢一美町議会議長の他、在島者の方も多く八丈島から参加しています。

今後ともより多くの方が参加し、この会がより長く続くことを祈念します。

平成 26 年度 三根小学校の年間行事



4 月 7 日	月	始業式・入学式
4 月 25 日	金	砂浜アート打ち合わせ
5 月 21 日	木	田植え
5 月 23 日	金	スポーツテスト全校取り組みディ
6 月 16 日	月	水泳指導開始
7 月 11 日	金	田んぼの草取り
7 月 23 日	水	夏休み開始・水泳指導 23～25日
7 月 28 日	月	夏季水泳指導 28～31日
8 月 25 日	月	夏季水泳指導 25～28日
8 月 29 日	金	夏休み終わり
9 月 4 日	木	委員会・発育測定 5,6年
9 月 5 日	金	学校公開 にこにこ展始
9 月 11 日	木	学校公開 にこにこ展終・稲刈り
9 月 26 日	金	秋の遠足
10 月 3 日	金	連合音楽会
10 月 16 日	木	運動会係り児童打ち合わせ
11 月 3 日	月	文化の日・秋季大運動会
11 月 11 日	火	安全指導・点検・就学時健康診断
12 月 18 日	木	中学授業体験
12 月 25 日	木	特別時程・終業式
1 月 8 日	木	特別時程・始業式
2 月 1 日	日	学芸会
3 月 24 日	火	卒業式
3 月 25 日	水	修了式・就任式・入学式練習
3 月 26 日	木	春休み始まり

歴代学校長

初代	高橋 興一	明治8年	～
二代	高橋 郡乃助	明治10年	～
三代	持丸 繁吉	明治11年	～
四代	浅沼 禎一	明治15年11月	～
五代	網中 安太郎	明治20年6月	～
六代	浅沼 禎一	明治23年6月	～
七代	網中 安太郎	明治26年8月	～
八代	井上 千代太郎	明治36年10月	～
九代	佐藤 忠次郎	明治41年4月	～
十代	竹内 保雄	明治44年2月	～
十一代	半澤 保	明治44年12月	～
十二代	佐藤 忠次郎	大正5年5月	～
十三代	石堀 時三郎	昭和12年4月	～
十四代	出野 電治郎	昭和13年4月	～
十五代	矢部 伴三	昭和14年12月	～
十六代	浅沼 無津一	昭和20年11月	～
十七代	小宮山 才次	昭和34年4月	～

十八代	奥山 守治	昭和39年4月	～
十九代	白田 只市	昭和41年4月	～
二十代	山丸 春雄	昭和45年4月	～
二十一代	松代 恒信	昭和48年4月	～
二十二代	木村 由房	昭和54年4月	～
二十三代	阿部 薫	昭和57年4月	～
二十四代	鎗田 嘉夫	昭和60年4月	～
二十五代	牛島 英次	昭和60年7月	～
二十六代	町田 恵司	昭和63年4月	～
二十七代	菊池 幸次	平成3年4月	～
二十八代	千葉 稔	平成6年4月	～
二十九代	濱中 賢次	平成9年4月	～
三十代	塩谷 通男	平成12年4月	～
三十一代	小家 建	平成15年4月	～
三十二代	高城 栄則	平成18年4月	～
三十三代	久能 正吾	平成23年4月	～
三十四代	鈴木 勲	平成25年4月	～

歴代 PTA 会長

初代	藤巻 藤太郎	昭和23年7月	～
二代	丹下 省吾	昭和32年4月	～
三代	菊池 正男	昭和39年4月	～
四代	浅沼 君雄	昭和42年4月	～
五代	高橋 聰正	昭和47年4月	～
六代	藤巻 正英	昭和51年4月	～
七代	高橋 聰正	昭和52年4月	～
八代	雨森 左仲	昭和54年4月	～
九代	藤巻 照久	昭和58年4月	～
十代	杉浦 一雄	昭和60年4月	～
十一代	菊池 優	昭和62年4月	～
十二代	小宮山 喬	平成2年4月	～
十三代	内山 江差夫	平成3年4月	～
十四代	徳重 丈夫	平成6年4月	～
十五代	大澤 幸一	平成9年4月	～
十六代	小栗 史朗	平成10年4月	～
十七代	浅沼 清	平成13年4月	～
十八代	佐藤 謙	平成15年4月	～
十九代	大澤 幸一	平成17年4月	～
二十代	沖山 浩	平成19年4月	～
二十一代	奥山 富雄	平成20年4月	～
二十二代	田代 哲朗	平成22年4月	～
二十三代	沖山 重彦	平成24年4月	～

三根地区居住分布

2013 年 3 月 31 日現在

	世帯数	人口	18歳以下
矢崎	80	132	13
川向	37	73	9
宮の平	50	78	13
中道1	92	152	26
中道2	45	81	13
中道3	54	86	18
川の平	34	58	9
与惣次	40	83	14
尾畑	48	72	4
荒島	29	59	15
明治橋	28	49	4

	世帯数	人口	18歳以下
護神	47	87	11
新道	114	214	38
丘里	170	320	62
新田	50	92	13
桜平1	80	142	26
桜平2	27	49	15
稲葉	22	40	6
孫兵衛	40	72	5
富士見1	208	341	50
富士見2	161	277	36
片瀬	70	148	30

	世帯数	人口	18歳以下
一心	31	54	1
東畑	35	53	10
中平	39	65	6
赤金	41	69	7
洋望	75	118	12
底土	77	125	12
出廻	74	147	28
神湊東	123	205	31
神湊西	87	159	23
永郷	30	42	2

人物紹介

小宮山才次校長先生のエピソード

年次会報の創刊にあたってこの紙面では本日参加の皆様がよくご存じの校長先生である「小宮山才次」校長先生を紹介したい。ここでは紙面や情報収集の限界もあり、簡単に経歴やいくつかのエピソードを述べるに留めたい。



【経歴】

○小宮山 才次氏

・生誕日について 明治三十六年十二月十九日生 八丈島榎立に生まれる(旧姓 奥山)

・豊島師範学校を大正十三年卒業

・教員時代 師範学校卒業後、大島岡田尋常小学校を第一步に三根尋常

小学校、昭和十二年から校長として

末吉、大賀郷、宇津木の各小学校で

勤務 昭和二十二年に創設された富士

中学校では初代校長として新制中

学校の基盤づくりに労力を重ねる。

そして昭和三十九年に三根小学校校

長を最後に退職。

・昭和四十三年に八丈町教育長に任

命され四年間務める

・昭和五十二年十一月 勲五等双光

旭日章を受章

・平成元年八十五歳にて死去

【エピソードとして】

○太平洋戦争中は学校閉鎖で学童疎開となり、八丈の学校の生徒たちにつき添い、何度も船に同乗して疎開させている。その疎開先、軽井沢では「八丈島学寮」を設営し、才次校長先生自らリヤカーに教材を満載にして数キロも引いて歩き、島の子供たちにそこで学問を教え続けたという話である。

また、戦争当時の島内の教育現場では、軍の指導での意見衝突もあり、自らの教育理念を通し続けたとの逸話もある。

○後輩の学生たちを自宅において無償で夜学を開き受験勉強を教えた。その生徒たちの多くは師範学校に入り、のちに島内の小中学校の先生、そして校長先生となり八丈島の教育に貢献された。平右衛門先生や憲春先生、雨森先生など、私たちが教わった身近な校長先生たちである。

そしてその後もその自宅の夜学校は不定期ながら数十年も開き続けて近所、知人の子供たちなど高校、大学に送り込んだ。すべて無料奉仕である。そののちにその生徒たちの多くは教育者となっていた。

○戦後、暫くは八丈島に中学校はなく、昭和二十二年になって大賀郷村・三根村学校組合立富士中学

校が設立された。初代校長は小宮山才次校長先生である。ここでは大賀郷村と三根村と同じ中学校で生徒たちが学び、松・竹・梅などのクラスがあった。昭和二十九四年には大賀郷に中学校が設立され、その時に梅のクラスは大賀郷へ移って行ったとのことである。残った富士中学校ではその後、梅の代わりに「椿」というクラスができて松・竹・椿のクラスになったとの経緯があった。皆さん、知っていましたか？

また、現在の富士グラウンドにあった当時のブロックの校舎は皆さんよくご存じだと思いますが、このブロック校舎は学校予算の少ない時代に才次先生など中心となって三根地区の住民をはじめ、当時の生徒たちも手伝ってもらい、まさに手作り校舎であったと言う。誠に感慨の深い思いがする逸話である。
*ちなみに富士中学校の校歌の原曲は才次校長先生の作曲だそう。英語でもなんでも教えられる才次先生だがその当ても音楽の作曲を手掛けて、創ったことである。多彩な才能を発揮されたひとつである。

○戦後の物のない時代に島の学校の教材不足、校内の教育備品や設備の不備など当時の先生たちには多くの教育現場の悩みを抱えていたそう。そのような状況の中でも教育熱心な才次校長先生は自分の私財を投げ打っ

て教材などを購入し、教育環境を整えて生徒たちの指導・教育に当たったとのご家族の話もあった。

○一昔前、昭和四十七年に八丈島の三根地区に暴力団関係の施設が計画され、平和な島で大騒動な事件が持ち上がり、教育はもちろん、地域社会にも大きな影響があり、その施設建設の反対運動が住民から大きなうねりとなって起き上がった。その時も才次校長先生はその反対運動のリーダーとなり暴力団と対峙し、住民をまとめて撤退に追いやったと言う。八丈島での住民運動の先駆けとなった事件でもある。

○まとめ

このように才次校長先生は学校教育に強い情熱をもって取り組んでその功績を残してきた。生徒たちはもちろん後輩の先生たちにも愛情をもって接し、非常に面倒見がよく、多くの生徒、後輩の先生たちを育てあげて尊敬されてきた。また、校長先生だけではなくその後には八丈町の教育委員長も4年間務めている。

戦後の昭和の時代、高度成長期において八丈島の学校教育に長く関わってきた小宮山才次先生はその振興と発展に多大な貢献を成し遂げた御仁であった。

会員便り

島のガイド体験

昨年夏、予てより「一度、八丈島へ是非行ってみたい」という会社の女性グループ3名を夏の帰省時に連れて帰った。滞在のスケジュールの中では海はもちろん山、温泉、小料理屋など、島の名所や食処など案内して回り、あっという間の3日間で、ハードスケジュールの日程で終わった。そして帰りの空港での見送り時に彼女たちが「120パーセント満足しました」と言った言葉を聞いて（喜んでもらえてよかったと）連れてきた甲斐はあったのだと安堵して見送った。そしてその後、会社ではしばらく八丈島のことが話題となったのだが八丈島のどこが良かったか詳しく尋ねると「底土でのシュノーケル、富士登山、裏見が滝、末吉の温泉」などを挙げて自分たち島人と違った視点で見たり、感じたりした個人の体験談を聞かせてくれた。彼女たちの話を聞いてみると私自身、改めて故郷の島である「八丈島の大自然」のすばらしさを自慢に思えてきた。そしてまだ、自分の知らない八丈島が再発見できるのではないかと思うようになった。近いうちに再び、島の自然、名所を自分の家族と一緒にゆっくり味わいたいと思う気持ちが強くなってきた今回のガイド経験だった。そしてまた、今年も会社の別のグループを連れていくことになりそうだ。

東京在住 N.Mより

八丈島でランニング

医者に健康のため運動を勧められ、ランニングが趣味となり12年経ちました。

毎年1月10日頃に行われる八丈島ロードレースに参加しています。

地元に戻る良いきっかけになっていますが、大会そのものも他所に自慢できるイベントで遠方から来るランナーがあるからです。

今年は高知から飛行機を乗り継いでやって来た女性3人組りピーターに会いました。

去年は大会の後天気が悪くなって2日間欠航流人になったにもかかわらず、島のおもてなしが良かったのでまた来たそうです。地元の人々の頑張りが伝わったのですね！

みなさんも島のイベントを調べて帰省の

きっかけにはいかがでしょうか。

昭和41年度卒業 千葉県 SS

タイムマシンの風に乗って

風揚げ
ぼくはたこをあげました。いつまでもあげていたら だんだん かぜがつよくなってきました。ぼくのたこがまんぐりかいて ひっちゃばけました。それでぼくはうちにかえりました。あんちゃんが「うぬがたこは どこげいやろう」といいました。ぼくが「ひっちゃばから」といったら「おまえにはもう たこは はってけんなか」といいました。

お正月特集

昭和32年の3月

1年生の文集より、氏名 S・O

えんそく

Tくんが「てんぐさが あろは」ていったので ぼくは はしって うみのほうへいきました。そしてぼくは とりました。また、あとから Yくんがとりました。Kくんが「たかがにが あろは」といいました。N先生が「どら どら」といいました。KくんとTくんがとりました。Nせんせいが「やいて かめ」といったら「おい やいてかもは」といいました。

最初の遠足「ちょうのいり」

32年5月 2年生の文集より、氏名 S・A

《春の楽しみ》

春は3月お彼岸の頃の帰島は特に楽しみにしています。明るく柔らかい春の陽の下、せり、よめな（嫁菜）、よもぎ、のびる、つくしなどを摘みながら八丈富士や三原山の林道、田んぼの畦道を彷徨するのは至福の時間です。

時折予告もなく降る春の雨に打たれて一層強くなった桜葉の香りを辺り一面に漂わし、白い花びらを惜しげもなく散らす山桜の木の下に身を置けばその幽玄世界に引き込まれてしまいそう…。これも春の山の贈り物です。

摘み草でおひたし、天ぷら、油炒め、酢味噌和えと何でも出来ますが、よもぎは明日姉にゴマたっぷり草餅にしてもらいましょうか。

大好きな嫁菜は塩少々で湯がいてあくぬきたらキュッと絞って細かく刻んで油で炒めます。味付けは「ちよっぱりの塩にちよっぱりの醤油」これは島在住の従姉からのレクチャー。そのままでも鰹節を加えても良しですが、温かいご飯との混ぜご飯は秀逸です。野草独特の苦味と微かな甘さを含んだ春草の香りが口中に広がり正に春そのままを食しているようです。

今夜は嫁菜飯と摘み草の天ぷらにのびるのぬた。主菜は到来物の春とびの塩焼きに骨ごと叩いた団子汁。もし幸運にもでっけい卵が入っていたら明日の夕飯の為に塩して置きます。春の海の幸、ぶどは摘み草に出掛ける前に炊いて型に流して置きました。恒例の明日葉はおひたしに、里芋は甘辛の煮ころがしかにようげにして塩辛を添えて仲間入り。

そして今夜の食卓に欠かせない島酎も席に着いてもらいます。氷はグラスのロー杯にほんの少しのお水を足してロックに近い水割りできりりと冷たいのを先ずは一口。

海の幸と先程まで野道に輝いていた春の生命を頂く喜びに心から感謝して乾杯！

さて何の春から頂きましょうか。

東京在住 K 女



♪素敵な出会いの場♪

めいらら〜い♪

穴のない5円玉などの小銭を持ち、大きな声でお店に入り、お気に入りの駄菓子を買っていた半世紀前の記憶も薄れる中、島を離れ、四捨五入で50代の平凡なサラリーマン生活。

そんな平凡な日常にも、やりがいと癒しの素敵な出会いの場を10年程前から持つことが出来ました。

中学生の為に硬式野球をサポートする、一般財団法人日本リトルシニア中学硬式野球協会に、所属している、国立中央リトルシニア野球協会で、スタッフとしてお手伝いをしています。

都立高校で初めて甲子園に出場した、都立国立高校の市川監督を中心として創立した、比較的若いチームです。

コーチングスタッフには、小学校の校長先生、警察官、郵便局、銀行員等、様々な職業の方が、同じ価値観を持ち、約70名の選手たちを指導しています。

まだ、チームは、全国大会出場には到りませんが、卒団生には、アメリカンフットボールで、日大三高や早大学院の主力選手として高校日本一に、また女子の大学野球で全国優勝するなどの特色を持ったチームです。

私は、硬式野球は素人ですが、島の四中駅伝大会で優勝した（プチ自慢）健脚で、選手たちとランニング、30分走、時には手に豆を作りながらのノックなど、練習に合宿と汗を流し、選手たちに鍛えられています？

まあ、その後のビールのなんと美味しいこと！！

ちなみに、コーチングスタッフには、サッポロビールの方もおります。

そして毎年代わって行く、選手たちや親御さんとの素敵な出会いと（偶然にも島育ちの選手との出会いも）、卒団後の選手たちの活躍を楽しみに、お手伝いをさせていただいています。

昨年、父親が亡くなりましたが、地域の方々に大変お世話になり、島らしく、しっかりと見送ることができ、大変感謝いたしております。島には、いつも両親が元気にいるものという妄想も消え、島に母親一人となった今後について、ますます深く考える様になりました。その様な中、島への想いを肌で感じ取れる素敵な出会いの場として、三根会に参加させていただいています。

今は、インターネット等で、島の状況を手軽に知ることが出来ますが、実際に三根会で、先輩方や同級生、そして後輩と会い、情報交換や昔話をする事で、また明日からもしっかりとやって行こうという、励みになってくれる、そんな大人の会だと思っています。残念なことに、このところ若い方々の三根会への参加がありません。

毎回参加出来なくても、気の向いた時、また何か島についての想いが湧いて来たとき、気軽に三根会に、皆様どうぞ

おじゃりやれ〜♪♪

昭和 46 年度卒 浅沼邦利

偲ぶ歌

宮本幸俊先生を偲ぶ

松村竹雄

断らず杯も交わさずこの世をば去りし宮本幸俊偲ぶ
君逝きて初七日過ぎて夫人より葉書一枚訃報の知らせ
約束の同窓会にさきかけて桜待たずに君は旅立つ
満開の桜吹雪のひとしきり今年の桜君はいずこで
夫逝くも共に挑んだ山登り思い出めぐる夫人の便り
形見分けの「たら吉」の皿に冷や奴精進落しの缶ビール飲む
絶筆となりし賀状の東大寺鐘楼画より音を聴くなり
古都明日香愛した君を偲びつついつか辿らん山の辺の道
クラス会華奢な体で「元氣だよ」言いしやさしい声の聞こえて
訃報聞き教え子たちの「えっまさか？」聞こえ来るかも折々今も

三根会に寄せて

毎年、春先に為ると 三根会の事が先ず頭を過ぎる。
今年はいけるだろうか！？ 誰が来るだろうか！？
懐かしい面々に 又会いたいものだ・・・と 何時も思う。
三根会も、代々の会長さんはじめ 事務局の幹事、各
学年の幹事の方々の
ご尽力のお蔭で、三十数回目を数え、大変盛況の会と
為って居る事は
まことに喜ばしく 又 会を運営、盛り立てて下さって居
る諸般の方々に
敬意を表すると共に 厚く御礼を申し上げたいと思う。

島を離れ 内地に暮らして幾十年・・・。

年に一度の懐かしい再会が どれだけ心の励みに為って
来た事か・・・

此の齢に為ると 恩師の殆どは鬼籍に入り、
団塊の世代、戦後のベビーブーマーと言われた年代の
私たちの学年でさえ

二十名を超える物故者を数える様に為って来ている。
企業戦士の第一線から退き、体力気力 共に万全！・・・
とは言い難く

色々な病を、どこかしらに抱えると言う様な齢・・・。
せめて、動ける間は・・・懐かしき友共に会い見える
事の出来る

この三根会が 末永く盛会で有って欲しいと 常々願うの
である。

又今年も 大好きな「校歌」を歌いに 往ける事を楽し
みに・・・。

筆を擱く事にします。

昭和 34 年度卒 徳重 英一郎

- ・ 松村竹雄（S 3 6 年～S 3 9 年富士中学校在籍）
- ・ 宮本幸俊（S 3 6 年～S 3 9 年富士中学校在籍）

協 賛

- ・ 八丈興発株式会社
- ・ 梁山泊
- ・ 赤松自動車株式会社
- ・ 船山レンタカー

協 力

- ・ 八丈町役場
- ・ 八丈町立三根小学校
- ・ 八丈町立富士中学校